

千川中学校だより

12月号 平成30年12月18日(火)

「多文化共生社会の担い手」

千川中学校長 紅床 直也

いよいよ来年から年号が変わるということもあり、新しい時代の学校の在り方についての議論が活発になっています。中学校では来年度から本格実施となる「特別の教科 道徳」や各校の特別支援教室で支援を受けることができる「巡回指導制度」の本格実施など、新しい取組が目白押しです。本校の来年度教育課程（教育計画）も、それを踏まえたものになります。今号では、来年の「2019 東アジア文化都市 豊島」、再来年の「東京オリンピック・パラリンピック」を見据えて、長期的な視点で育成すべき生徒像について触れたいと思います。

日本有数のターミナル駅を抱える本区は、すでに多文化共生社会へと変容しています。豊島区内のどの小中学校にも外国籍の児童・生徒たちがいます。そうした海外での豊富な生活体験を持った子どもたちを核として、大人も含めた周囲の全ての仲間が多文化共生社会の担い手とならなくてはなりません。では、そうした人材を育てるには具体的にどのような教育活動を心掛ければいいのでしょうか。すべての活動の基盤となる「知識」の観点から述べたいと思います。

①国際協調・平和

戦争に対しての「心の砦」を作ること、過去の歴史の振り返りも重要です。この瞬間を生きる子どもたちは、戦争の実体験からは遠く離れていますが、さまざまなメディアによって、平和の大切さを学ぶことができます。本校の課題別学習の中に、必ず、「国際理解教育」をテーマとした講座を設定しているのは、そこから自分の知識を確かなものにしてほしいからです。

②文化的多様性と共通性

国際理解と言うと文化の違いばかりに目が向いてしまいがちですが、その底に流れている人間としての共通性に気付かせなければ、教育では無くただのバラエティ番組です。お互いが民族的な出し物を披露するだけでは、それらしく見せているだけの偽物です。人種・国籍・性別・年齢等を問わない多様性を認めることが大切です。

③相互依存

日本の食糧自給率はカロリーベースで39%。エネルギー自給率ではたった6%。すべてが国際的な相互依存関係に組み込まれていることに気付かせることです。国際協調が無ければ今後の日本の繁栄はありません。

④正義・公共性

どんなに仲が良くても正義が守られなくては意味がありません。その仲の良さは公共性を基にしたものかどうか、常に振り返る必要があります。公共性とは、「平和で民主的な国家及び社会の形成者」を育てるための重要な考え方です。

⑤共生

生きているということは、すべてがつながっているということです。3つの共生（①「他者との共生」 ②「環境との共生」 ③「自己との共生」）があります。

⑥持続可能性

Sustainability. 未来への責任を取らなくてはいけないという考え方。今を未来の視点から考えます。自分の子孫が生きがいをもって活躍できる社会を作らなければなりません。

⑦民主主義

選挙権の投票有権者が18歳に引き下げられました。政治について小中学校段階の児童生徒に考えさせることはきわめて重要となります。

今まで述べてきた「知識」があって初めて、批判的思考力（あらゆる物事の問題を特定して、適切に分析することによって最適解に辿り着くための思考方法）が身に付きます。課題解決能力（時には言葉の壁を越えて取り組む）と合わせて、多文化共生時代を生きる必須の能力です。意図的・計画的な教育により、本校から未来の日本を牽引する生徒を育てていきたいと思います。

◆◆「ふれあい月間」(11月)ー継続した指導と見守りー◆◆

11月は東京都教育委員会が年間3回設定している「ふれあい月間」の2回目でした。6月に引き続き、生徒へのいじめアンケートを実施しました。自分自身のこと、近くにいる友人のこと、クラスの仲間のことをあらためて見つめ、感じていることや気になることがある場合には、先生たちがその思いを聞き取りました。11月はじめには2回目のハイパーQ U調査も行いました。

大切にしていることは「継続した指導」の姿勢です。定期的な調査を行い、その結果を適切な指導に生かすとともに、その後の見守りを確実に行うことです。生徒と教員の信頼関係の構築し、日常の学校生活における生徒一人一人の見取りを肝要としています。教育活動全体を通して、「思いやりの心」や「相手を尊重する心」の育成に努めていきます。

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

～「振り返り」と「繰り返し」～

今年4月に3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査において、調査問題とともに「生徒質問紙」が行われました。その教科に関する質問の中で肯定的な回答が高かった質問項目は以下の通りでした。



【数学】「授業の内容はよく分かりますか」「できるようになりたいと思いますか」
「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」

【理科】「授業の内容はよく分かりますか」「観察や実験を行うことは好きですか」
「観察や実験の結果をもとに考察していますか」

一方、調査問題(国語・数学・理科)の平均正答率の結果では、国語は「書く力」、数学は「数学的な技能」、理科は「自然事象についての知識・理解」が低い傾向にありました。

自主的に課題に取り組み、先生の発問に真剣に考え、積極的に自分の考えを表現するという学習態度が、日々の授業の中で繰り返されることにより確実な学力が定着していきます。

千川中生の質問紙の回答から、授業に楽しく参加している姿が感じられます。これからの課題は、学習したことを反復することです。一回の授業や定期考査の学習だけで終わらせることなく、「振り返り」と「繰り返し」を大切にして学習に取り組みましょう。

教育相談・学校評価アンケート ご協力ありがとうございました。

先日、12月の教育相談が終了しました。短い時間ではありましたが、お子さまの学校生活の様子について、保護者の皆様と共有し、今後の指導に向けて話し合いができましたことは大変有意義なことでした。お忙しい所、ご来校いただきましてありがとうございました。

また、学校評価アンケートにもご協力いただき感謝申し上げます。来年度の教育活動の充実と発展に生かしていきます。なお、結果がまとまりましたらご報告いたします。

生徒の活躍

○中学生「税についての作文」

豊島納税貯蓄組合連合会

優秀賞「税の有り難さ」 **** (3年)

//

優秀賞「当たり前ができるありがたみ」 **** (3年)

//

優秀賞「僕の中の税」 **** (3年)

○明るい選挙ポスターコンクール

優秀賞 1年 ****、****

入選 1年 ****、****、****

****、****、****

○炎天寺一茶まつり全国小中学生俳句大会

入選 **** (2年)

○バドミントン部

豊島区冬季研修大会 男子ダブルス

優勝 ****、**** (2年)